
ハサミで切ったバイト話。

一柳 紘哉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハサミで切つたバイト話。

【Zコード】

Z0844A

【作者名】

一柳 紘哉

【あらすじ】

分からぬんですか？僕はやりたくないです他の人を当たつて下さい。何度もくる日給三万のバイトの話。これはそんなバイトを断つた一番最初の話。

「そこの君、もしよければ今から日給三万円のバイトやらないかね？」

道を見下ろしながら街を歩いていたら、身なりがとても品の良い、白髪で、髭が立派な初老の老人に声をかけられた。

「やりません」

僕はできつる限り冷たく簡潔に答えた。

冷たく否定した理由は簡単だ、僕はとっても暇だから。

「残念だ・・・

君はとても私の理想どうりなのだがね・・・うん、そつだな気が向いたらここに連絡してくれまいか」

そう言って、老人は僕に名詞を押しつけた。

気がつくと、名詞だけがそこにあり。老人はいなくなっていた。

僕は名詞を上着のポケットに入れてから、鞄に入っているペットボトルのミルクティーを全部飲みこみ。家に帰った。

イツツ ソウ クール

僕は、家の窓から街を見下ろすのにも飽きてしまい、今日もうつた名詞を見ることにした。

上着のポケットにはなぜか名詞はなくて、よく探してみたらズボンのポケットに入っていた。

名詞はとても綺麗な草原のようなグリーンで僕の心を和ませた。

しかしこれは名詞としての役割を完全に果たしていない、置き換えるならメモのような存在だと言つことに気づいた。

なぜなら、この綺麗なグリーンの紙には電話番号しか乗っていない。

裏には（なにをもつて裏と呼ぶかは不明だが）ぽつりと小さく、トランプのダイヤのマークが入っていた。

僕は、興味を失い、ハサミで小気味よく切り刻もうとしたら

「ほらね、やつぱり君は私の理想にぴったりだ。」

と、煙草サイズの朝と全く同じ老人が、紙の裏のダイヤのマークから出てきた。

「安心したまえ、私はここにいるようで、これは、私でわ無い。

だから、こんなとても常識外な事があつても君は間違いなく自分で考えた行動しかしないであろう。

だから私は君が理想どうりなのだよ。

理解できるかな？

だから私は、これから君の起こす行動を少しながらも理解しているつもりである。

なので近いうちにでもまた訪問するよ。」

そう言って、老人は礼をした。

老人の言つたとおり、僕が最初から考えてたとおり、小気味よく、ハサミで切り刻んだ。

イツツ ソウ クール

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0844a/>

ハサミで切ったバイト話。

2010年11月28日06時20分発行